SP
Nikon
Nikon
ニコンＳＰの使い方

はじめに

このたびは，ニコンＳＰ復刻モデルをお買い上げいただき，ありがとうございます。このカメラは，昭和32（1957）年９月に発売されたニコンＳＰを，撮影フィルムの規定枚数表示など，現在の事情に合わせて施した一部の改良点を除いて，ほぼオリジナルどおりに再現した，限定版復刻モデルです。
ニコンSPは，当時の精密光学技術を結集し，6種のレンズに対応する距離計ファインダーや不回転一軸シャッターなどを採用した，ニコンレンジファインダーカメラの最上位機でした。
そして今回のニコンSP復刻モデルはただ飾っておいていただくためだけの記念碑ではなく，写真を，カメラを，ニコンを愛する方々に，大切に使っていただきたいという願いを込めてお届けするものです。
それでも，現在の随所に自動化が進んだカメラに慣れ親しんでおられる方々は，あたかも撮影者に多くのスキルを要求するかのような，未体験の操作性に当惑されるかもしれません。どうか，この使用説明書をよくお読みいただき，古くて新しい，写真撮影のもうひとつの楽しさを，存分にご堪能ください。

前　面　図

1．自動コマ数表示盤（フィルムカウンター）
2．フィルム長さ表示窓（規定撮影コマ数表示窓）
3．シャッター押しボタン（シャッターボタン）
4．シャッター巻上げレバー（巻き上げレバー）
5．フィルム巻もどし切換え（ＡＲ）リング
6．シャッター目盛盤（シャッタースピードダイヤル）
7．シンクロセレクター窓
8．シンクロセレクター
9．アクセサリーシュー
10．挿入式フラッシュ用接点
11．ファインダーセレクター
12．フィルム巻もどしクランク
13．負皮どめ（吊り金具）
14．シンクロソケット（シンクロターミナル）
15．距離計ファインダー窓
16．被写界深度目盛
17．レンズ取りはずし爪
18．レンズ絞りリング
19．距離リング
20．距離目盛
21．セルフタイマー
22．無限遠どめ
23．焦点調節ギア
24．レンズ前ぶた（レンズキャップ）

1

背　面　図

25. 広角レンズ用ファインダーのぞき窓
26. 距離計ファインダーのぞき窓（ファインダー接眼窓）
27. フィルムＩＳＯ感度表示盤
28. 三　脚　孔（三脚ネジ穴）
29. 裏ぶた開閉用キイ（裏ぶたロックレバー）

（　）内の表記は，現在販売されているニコンカメラで使用されている名称です。

この使用説明書について

・この使用説明書は，ニコンＳＰ発売時（昭和32年９月）の使用説明書の記載内容を，可能な限り再現して作成しております。カメラともども，当時（昭和30年代）の雰囲気をお楽しみください。

・なお，このため，操作部名称や表現方法等，現在発売中の他のニコン製品とは異なる部分があります。また，現在発売されていないアクセサリー等についての記述も含まれています。あらかじめ，ご了承ください。

ご使用になる前に

・ニコンＳＰ発売当時の交換レンズ，その他アクセサリーは，このカメラに装着することはできますが，発売より相当年数が経過しておりますので，動作および性能は保証いたしかねます。ご注意ください。

・このカメラは布製シャッター幕を使用しております。幕焼けの恐れがありますので，撮影時以外はレンズキャップを装着するなどして，直射日光等の強い光がレンズに差し込まないよう十分ご注意ください。

・このカメラのアクセサリーシューは専用のフラッシュガン，露出計，ファインダー等（現在は販売致しておりません）を装着するためのもので，ホットシュー等のダイレクト接点はありません。取り付け脚に接点のあるスピードライトは，直接アクセサリーシューには取り付けないでください。取り付ける際は，テープ等で接点を絶縁してください。

・3.5cmF1.8復刻モデルに，従来のニコン製43mmフィルター（ネジピッチ＝0.5mm）は装着できません。また，ニコンもしくは他社製の48mmフィルターについても装着できません。無理に使用すると，レンズもしくはフィルターに大きな損傷を与える可能性がありますのでご注意ください。

安全上のご注意

ご使用前にこの「使用説明書」をよくお読みのうえ，十分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は，お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

表示について

製品を安全に正しく使用していただき，あなたや他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために，重要な内容を記載しています。

表示と意味は次のようになっています。

警告	この表示を無視して，誤った取り扱いをすると，人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して，誤った取り扱いをすると，人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

警告・注意の詳細につきましては，7ページをご参照ください。

絵表示の例

△ 記号は，注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容が描かれています。

○記号は，禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は，行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容が描かれています。

⚠ 警 告

分解禁止

分解したり修理・改造をしないこと

異常動作をしてケガの原因となります。

接触禁止

すぐに修理依頼を

落下などによって破損し，内部が露出したときは，露出部に手を触れないこと

破損部でケガをする原因となります。
販売店または当社サービス機関に修理を依頼してください。

使用禁止

引火・爆発のおそれのある場所では使用しないこと

プロパンガス，ガソリンなど引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると，爆発や火災の原因となります。

警告

ストラップが首に巻き付かないようにすること　特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと

首に巻き付いて窒息の原因となります。

見ないこと

レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと

失明や視力障害の原因となります。

⚠ 注 意

保管注意

製品および付属品は，幼児の手の届かない所に置くこと

ケガの原因になることがあります。

保管注意

使用しないときは，レンズにキャップをつけるか太陽光のあたらない所に保管すること

太陽光が焦点を結び，火災の原因になることがあります。

移動注意

三脚にカメラやレンズを取り付けたまま移動しないこと

転倒したりぶつけたりしてケガの原因になることがあります。

ご確認ください

■保証書について

この製品には，保証書を添付してありますのでご確認ください。

- 保証書の詳細につきましては，41ページの「アフターサービスと保証について」をご覧ください。

■撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）をするときには，必ず試し撮りをして，カメラが正常に機能するかを事前に確認してください。

- 本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害）についての補償はご容赦願います。

■定期的に点検サービスを受けてください

カメラは精密機械ですので，１～２年に１度は定期点検を，３～５年に１度はオーバーホールされることをおすすめします（有料）。

■本製品を安心してご使用いただくために

本製品は，当社製の専用レンズ，アクセサリーに適合するように作られておりますが，組み合わせて使用できるレンズ，アクセサリー等は販売されてから相当の年数が経過しているため，動作につきましては，本カメラの付属品である3.5cmF1.8レンズとの組み合わせのみを保証しております。

- 他社製品との組み合わせ使用により，事故，故障などが起こることもございます。

●付属品（お確かめください）

3.5cmF1.8用
レンズ前ぶた

レンズフード

三角環
（プラスチックカバー付き）

三角環の付け方

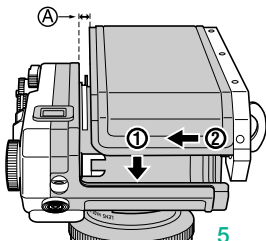
1．三角環の折れ曲がっている部分を負皮どめ(吊り金具)に差し込み，三角環を回して取り付けます。三角環の折れ曲がっている部分を折ります。

2．プラスチックカバーを取り付けます。

裏ぶたの取り外し・装着

「ニコンSP復刻モデル」は，現在の一眼レフカメラ等とは，裏ぶたの開閉方法が異なり，裏ぶたの取り外し・装着の際にフィルムレール，フィルム圧板を傷つけるおそれがありますので，ご注意ください（フィルムレール，フィルム圧板に傷が付いても，撮影に影響はありません)。特に，フィルムが装てんされていないときは，シャッター幕保護フィルムシートを使用してシャッター幕，フィルムレールを保護してください（同シートは紛失しないようにご注意ください)。

フィルムまたはシャッター幕保護フィルムシートがないときは，製品に傷が付くのを最小限に抑えるため，裏ぶたのフィルム圧板とボディ内部のフィルムレールとがすれ合う距離が短くなるよう，次の手順で裏ぶたを装着してください。

1. 裏ぶたのかぶせ部分とカメラボディのかみ合わせ部分との距離（図5のA）がなるべく小さくなる位置で，裏ぶたをかぶせます。
2. 裏ぶたをカメラに軽く押し当てながら静かにスライドさせて，完全に閉じます。

目　次

ニコンSP 復刻モデルの使い方

付　録

（ここでご紹介しているレンズやアクセサリーは，現在販売しておりません）

ニコンSP 復刻モデルの使い方

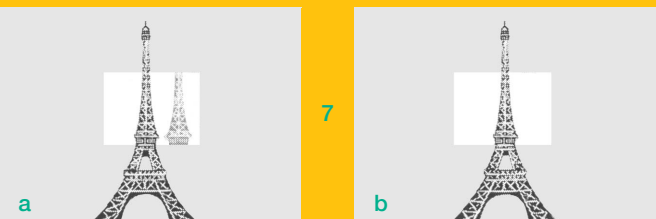
距離計ファインダー

ニコンＳＰカメラの最も著しい特徴は，距離計と共に万能ファインダーが内蔵されていることであります。これによって2.8cm，3.5cm，5cm，8.5cm，10.5cmおよび13.5cmという６種類のニッコール交換レンズの各々の画角が示されますので，特別のファインダーをとり付ける必要はありません。

距離計ファインダーののぞき窓は第６図に示すように左右二つの部分にわかれています。右側は連動距離計と同時に5cm，8.5cm，10.5cmおよび13.5cmのレンズのファインダーとなっております。左側は広角レンズ2.8cmと3.5cm用のファインダーとなっております。

ａ．2.8cmおよび3.5cm用ファインダー

ｂ．連動距離計と5cm，8.5cm，10.5cmおよび13.5cmレンズ用ファインダー

焦点合わせ

　レンズの距離リングを回せばレンズが出入りします。距離リングを回しながらファインダーの右側の窓をのぞいてその視野の中心に見える被写体の二重像（第７図ａ）を合致させれば，その被写体に対してレンズの焦点が合ったことになります（第７図ｂ）。

　合致を正確に見るためには，カメラを横にもつ場合は，被写体内の垂直方向の線を選ぶと好都合です。またカメラを縦にもつ場合は，水平方向の線を選ぶと好都合です。

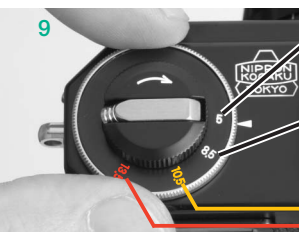
　被写体までの距離は，二重像が合致した時の距離目盛の数字で示されます。

　内爪マウントに装着する標準レンズ等では，ギヤについている無限遠どめを押してからギヤを回しながら焦点合わせをします（第８図）。

構図の決定

標準および望遠レンズ用ファインダー

　まず巻きもどしノブの下にあるファインダーセレクター（第９図）を回してレンズの焦点距離を示す数字（標準レンズ５cmでは５，望遠レンズ8.5cmでは8.5，10.5cmでは10.5，13.5cmでは13.5）

9

を指標に合わせます。

　各場合に右側の距離計ファインダー窓をのぞきますと５cmから13.5cmまでの４種類のレンズの画面に応じた光像枠が視野内に現われます。例えば５（白文字）に合わせますと，視野に白線の枠が見え（第10図ａ）ますが，これが５cmレンズを用いたときの画面の範囲を示すものです。

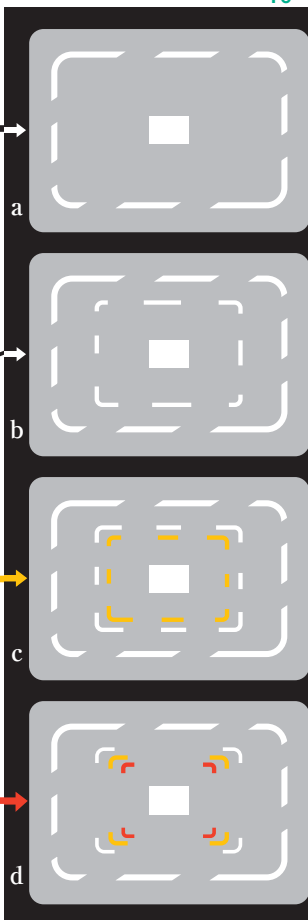
　次に8.5（白文字）に合わせますと，もう一つ白い枠が内側に現われます（第10図ｂ）。

10

a

b

c

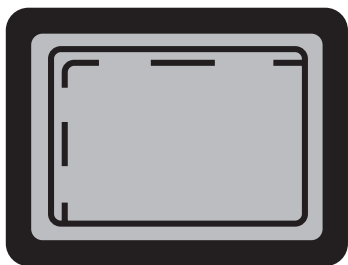
d

これが8.5cmレンズの画面範囲です。

次に10.5（黄文字）に合わせますと，内側に更に黄色の枠（第10図 c ）が現われ，13.5（赤文字）にすると，更にまた内部に赤枠（第10図 d ）が現われ，それぞれのレンズの画面範囲を示します。

以上のようにして13.5にすると 5 cmから13.5cmまでのレンズの全 4 種類の枠が一度に見えますので，被写体に応じてどのレンズを用いるとよいかが，ただちにわかり非常に便利です。

なお以上いずれの場合も光像枠は，パララックスが自動的に補正され，近距離の被写体でもファインダーの光像枠と実際の画面とがズレる心配はありません。

広角レンズ用ファインダー

広角レンズ使用の場合には，眼を僅かに左に移しますと別のファインダー視野が見えます（第11図）。このファインダーの縁は2.8cmの広角レンズの画角を示し，内側

11

に見える黒色の枠は3.5cmのレンズの画面に相当します。パララックスの自動的補正はありません。

なお，3.5cm枠の内に更に破線がありますが，これは最短被写体距離ではここまで画角がずれることを示すもので，被写体距離1.3m以内の場合に用います。

シャッター目盛盤

シャッター速度目盛（第12図）のセットはシャッターの巻上げの前でも後にでも行なうことができます。

シャッター目盛盤上の数字はシャッター速度を示し，例えば１は１秒，60は1/60秒の意味です。

目盛を読む指標は目盛盤の外側にあります。

目盛盤をセットするにはその周縁の歯車をそのまま（つまみ上げないで）左右どちらの方向に回してもさしつかえありません。この場合クリックによって各目盛で止まります。クリックの中間にとめて使用されてもよいのですが,必ずしも中間の速度が得られるとは限りません。

目盛盤をＢ（バルブ）に合わせますと，シャッターはシャッターボタンを押している間だけ開きます。

目盛盤をＴ（タイム）に合わせシャッターボタンを押せば，シャッターが開いたままとなり，指を離しても閉じません。閉じるには目盛盤の数字Ｂまたは1000が外側指標を通過するまで右または左に回します。

シャッター目盛の数字は緑色と赤色と白色とに色分けにしてありますが，これはフラッシュシンクロセレクターのセットをし易くするためです（26ページ参照）。

シャッター目盛は倍数系列であり，等分目盛にしてありますから，電気露出計を連動させて使用することができます（34ページ参照）。

セルフタイマー

セルフタイマーによって撮影をするには，セルフタイマーレバー（第13図）を図で示すように矢印の方向に回します。そしてシャッター速度をセットし，シャッターレバーの巻上げを行なっておけば，セルフタイマーレバ

13

ーのすぐ下にあるボタンを押しますと，セルフタイマーは作動し始め，ジーと音がしてある時間後に自然にシャッターが切れます。シャッターレバーの巻上げはセルフタイマーをかける前でも後でもさしつかえありません。

セルフタイマーの作動時間はこのレバーを回す量（角度）によって最短３秒ないし最長10秒の間で調節できます。この角度は大体三つの白点によって示されていますが，少くともレバーの他端の凹みが最初の白点まで回しませんと作動しません。

セルフタイマーは1/1000〜1秒のシャッターに使用します。Ｂにセットしてかけたのではある時間開きますが，Ｔにしてかけたのではシャッターは開いたままです。そこでシャッター目盛盤を回さないと閉じません。

セルフタイマーをかけてもこれを使用しないことになってもシャッターボタンを押して撮影できます。ただしこの場合あとでセルフタイマーはかけたままにしておかないでください。

14

レンズの絞り

レンズを絞るには，レンズ鏡胴の絞りリングを回してＦナンバーの数字を白点に合わせます（第14図）。

Ｆナンバーの数が大きければ，それだけ実際の絞りが小さくなります。そしてＦナンバーの系列はナンバー毎にレンズの明るさが２倍だけ増減するようになっており，またニコンカメラのシャッター速度の系列は２倍ずつ変化しますので，Ｆナンバーとシャッター速度（露出時間）との関係は例えば次のようになります。

Ｆナンバー	2	2.8	4	5.6	8	11	16
露出時間（秒）	$\frac{1}{500}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{125}$	$\frac{1}{60}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{8}$

この関係は被写体の明るさが同じならばＦナンバーを右へ進める（絞り込む）ごとに露出時間は２倍にしなければならないことを示します。しかしこの表はただ２倍という比率関係を示す例であって，上下の数字の組合わせが常に適正なＦナンバーとシャッター速度であるという意味では決してありません。

被写界深度

被写界深度とはレンズの焦点を合わせたある距離の被写体の前後どれだけの範囲が十分に鮮鋭な像として得られるか，その奥行きのことです。この深度はレンズのFナンバー（F：1.8，F：5.6，F：8など）と焦点を合わせた被写体迄の距離とに関係し，Fナンバーの数が小さければそれだけ被写体の前後で鮮鋭となる深度は浅くなり，また被写体の距離が近ければそれだけ深度は浅くなります。

ニコンカメラでは別の被写界深度表を参照する必要はありません。（交換レンズでは各レンズの鏡胴についております）レンズの取付け基部に深度計がついておりますから，深度はこれによってただちに読みとることができます。次にその読みとり方の一例を示しておきます。

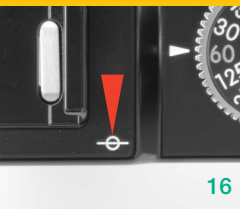
例

いま広角3.5cmレンズの場合を例にとり被写体の距離を3mとします。この距離にレンズの焦点を合わせますと，深度計の指標に距離目盛は3mと出ます（第15図）。そこでレンズをF：5.6に絞った場合の深度は，指標の両側の5.6という数字によって読める距離範囲となります。すなわち約2mから5mまでの間であります。

15

いいかえますとカメラから2.25mより5mまでの間の被写体ならば絞りF：5.6の場合に十分鮮鋭な像が得られます。更にこれにより前後にはずれた被写体は次第にぼけてしまうわけです。

内部フィルム面の位置

16

カメラ上ぶたのアクセサリーシューの近くにつけてある⊖というマークはカメラ内に装填したフィルム面の位置を示します。これは近接撮影の際などに被写体距離を厳密に定めたいときの基準点として利用します。

17

レンズの取り付け・取りはずし

レンズをカメラから取りはずすには，

1．距離目盛の∞（無限遠）を指標に合わせます。
2．レンズ取りはずし爪を押します※1（第17図）。
3．レンズの指標がカメラの方の赤点に合うまでレンズを右（レンズに向って見て）に回しますと，レンズははずれます。

レンズをカメラにふたたび取り付けるには，

1．カメラとレンズの距離目盛を両方とも∞（無限遠）に合わせます。
2．カメラの赤点とレンズの指標を合わせ，カメラのレンズ孔※2に入れます。
3．レンズを左へカチッと音が鳴り，止まるまで回します。
4．このとき，レンズ取りはずし爪が元に戻ること（落ち込むこと）を確かめてください。
5．距離リングを操作し，焦点調節ギアが回転することを確かめてください。

カメラは，レンズのある場合はレンズを，レンズのない場合にはレンズ孔を，直射日光に当ててはいけません。カメラの前面を掌または身体で隠します。

※1：取りはずし爪を強く押し込むと，距離目盛に傷が発生するのでご注意ください。
※2：カメラボディ正面の，レンズ取り付け部の穴のことを言います。

レンズフード

レンズはなるべく常にフードをつけてご使用になることをおすすめします※1。斜前方又は側方から強い光がレンズに入る場合にはフードは絶対に必要となります。

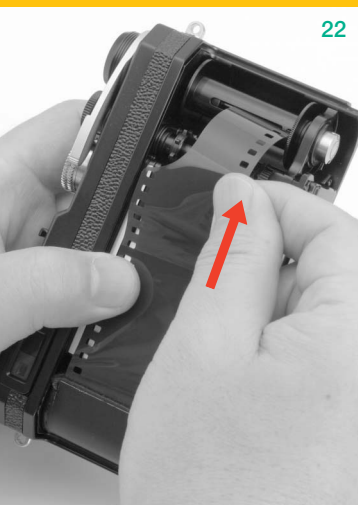
フードを装着するには，フード両側のボタンを指で押しこんで，レンズ前端のフード取り付けネジ部（絞りリング）に当て，ボタンから指を離してフードを右へ（時計の針の方向に）止まるまで確実に廻すと取り付けられます（第18図）。

フードを外す場合は，フードを左へ（時計の針と反対に）廻してから，ボタンを指で押しこめば取り外せます。

又，不用時には逆にしてレンズにかぶせて取り付けられます（第19図）。

※1：ただし，フードを装着するとファインダーをのぞいたときに視界の一部がケラレますので，必要に応じて取り外してください。

※ ：フード使用時および、逆向き取り付け時はレンズキャップを装着できません。

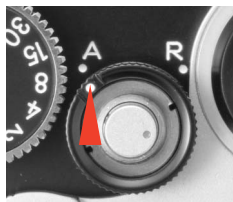
カメラへのフィルム装填

カメラの裏ぶたを取りはずすには，カメラの底部にある開閉用キイを回して指標をopenに合わせ（第20図），裏ぶたに親指をあてて押し出すようにして静かに取りはずします（第21図）。

フィルムパトローネをスプールと反対側に納めます。

次にパトローネからフィルムを10cm程出し，フィルムの末端をスプールの隙孔に差し込んで，隙孔のふちの突起にフィルムの穴をかみ合わせてから（第22図），スプールの下をくぐらせて巻きます。フィルムの穴をスプロケットにかみ合わせてからフィルムを押えながら（第23図）スプールにたるみなく巻けましたら，カメラの裏ぶたをかぶせます。そして開閉用キイの指標をcloseに回すと，フィルムはカメラに装填されたことになります。

しかしここでシャッターボタンの周縁の巻もどし切換えリングをA[※1]（第24図）に回すことを忘れてはなりません。そしてシャッター巻上げレバーを2または3回巻き上げてシャッターを切り，装填中に感光した部分のフィルムを送っておきます。

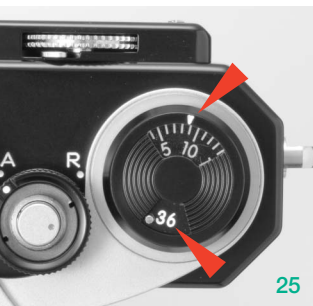
24

なおこのカラ撮りの巻上げの際，巻もどしクランクが矢印と反対方向に回ればフィルムが正しく送られていることがわかります。

もし装填後レバーを操作する前に切換えリングをAに合わせることを忘れ，Rに合わせたままでレバーを巻上げると，その度にフィルムは前進しますが，シャッターはかかりませんので，フィルムは無駄となり，次に述べる自動コマ数表示盤の指示が狂います。

※1：A＝Advance：フィルム巻き上げ時にセットします。シャッターチャージも行われます。
R＝Rewind：フィルム巻き戻し時にセットします。巻き上げレバーの操作でフィルムの巻き上げは行われますが，シャッターチャージは行われません。
※：S型用ニコンマガジンの使用は保証致しておりません。

自動コマ数表示盤

この表示盤（第25図上）はカメラの裏ぶたを開くと同時に，自動的に出発点（ゼロ以前）にもどるようにしてあります。フィルムを装填したならば，前ページで述べたようにコマ数表示盤が１を指すまで２または３回カラ写しをします。それ以後，撮影を進めるにしたがって，露出済みのコマ数が36まで自動的に示されます。

25

フィルム長さ表示窓

これは自動コマ数表示盤の向い側（第25図下）にあります。ツメで突起をひっかけて36または24のいずれかにしておけば，装填したフィルムの長さを表示できます。

フィルムＩＳＯ感度表示盤

これはカメラの底部（第26図）にあります。装填したフィルムのＩＳＯ感光度を示すためです。

なおＥとあるのはEmptyの意味で，フィルムを取り出した際ここにセットしておきます。

26

フィルムの巻きもどし

撮影ずみのフィルムは，これを取り出して新しいフィルムを入れ換えなければなりません。これにはフィルムをフィルムパトローネに巻きもどします。

まず裏ぶたを開く前にシャッターボタンのところの巻きもどしリングをRに回してから（第27図）巻きもどしクランクを起こして，矢印の方向に回していきます。この間シャッターボタンは回っています。フィルムが完全に巻きもどされた時には一旦抵抗を感じますが，さらに回せばフィルムがスプールからはずれ，急に軽くなります。クランクを回してもシャッターボタンは回りません。そこで裏ぶたをあけてフィルムパトローネを取り出します。

27

二　重　露　出

特殊な理由により故意に二重露出をしたい場合にはまずフィルム巻きもどし切換えリングをRに合わせます。次に巻きもどしクランクを矢印方向に回して，シャッターボタン上の赤点が一回転と少し余分（90度以内）に回るまでフィルムを巻きもどします。そして切換えリングをAにもどしてから，シャッターレバーを巻き上げ，第二の露出のためにシャッターボタンを押します。この際一度目と異なるシャッター速度を与えたければシャッター目盛盤をセットしなおせばよいのです。

なお二重露出によって自動コマ数表示盤は1コマまたは2コマ分よけいに表示されます。

（注意）

一回目と二回目の露出の際，コマ位置はフィルムのたるみ，カーリング，巻き上げの緩急などにより，若干のズレが生じる場合があり，完全にコマ位置を合わせることはできませんのでご注意ください。

スピードライト撮影の場合

・スピードライトの接続

スピードライトを接続する際にはスピードライトに接続したシンクロコードのプラグ部分を，シンクロソケットに差し込みます（第28図）。

（注意）

本製品のアクセサリーシューは専用フラッシュガン，専用露出計，専用ファインダー等（現在販売は致しておりません）を装着するためのもので，ホットシュー等のダイレクト接点はありません。取り付け脚に接点のあるスピードライトは，直接アクセサリーシューには取り付けないでください。取り付ける際は，テープ等で接点を絶縁してください。また，挿入式フラッシュ用接点（アクセサリーシュー前部）も専用フラッシュガン用であり，現在のスピードライト等には対応致しておりません。

・シャッター速度のセット（第29図）

シャッター速度は60またはそれ以下の低速度側にして下さい。但し，タイムラグのあるスピードライトではそのタイムラグに応じてシャッターを30またはそれ以下にして下さい。

・シンクロセレクター（ＦＸ）のセット

セレクターをセットするには，シャッター目盛盤の周囲の歯車を指で持ち上げて左右いずれかに廻します。シンクロセレクター窓にはセレクターを右に廻すにしたがって，上図の順にマークと文字が現れますので「ＦＸ」を選択します。

尚，セレクターの右廻転は緑マークで止まり，左廻転はＦＸで止まるようにしてあります。この限界を超して無理に廻さないで下さい。

フラッシュガンの場合

付録の「専用フラッシュガン」（36ページ）を参照して下さい。

赤外線写真

赤外線写真撮影に当たって焦点を合わせるには，まず距離計の二重像合致を行ない，それから距離目盛を読みます。そしてレンズを右方（レンズに向って見て）に少しばかり回転し，求められた距離を次の表に示す位置までずらせます。このずらせる量はレンズの種類によって異なりますことにご注意ください。

3.5cmレンズ	F：1.8	レンズ鏡胴上のＲのついた刻線

ここに図示した例では距離目盛が20mと出た場合です。そこで20の目盛をＲのついた刻線まで回します。

撮　　影

カメラのもち方

シャッターを切る際のカメラぶれを避けるために，カメラをしっかり持つことは，鮮鋭な作画を得るための絶対必要条件です。

したがってカメラを横に持つ場合にはカメラを頬に当て（第31図），縦に持つ場合には額に当てる（第32図）ことをおすすめします。シャッターボタンは静かに押してください。

なおこの際撮影者は足を開いて手のひじは体につけ，呼吸は射撃の時のように止めるのもよいことでしょう。

撮影前に
レンズのキャップを取り忘れないで下さい

左右の突起を押して着脱します。

巻上げレバー

巻上げレバーを止まるまで親指で右に押しますと，レバーは手を離せばもとへもどりますが，完全にもとの位置にはおさまらず，いくらか間隙ができます。これは次の巻き上げがしやすくしてあるのです。指でちょっと押し込めば完全におさまります。

シャッター目盛盤は中心部だけが巻き上げの際およびシャッターを切る際に回転します。中心部の黒点は速度に目盛をセットする外側の指標と合致していれば，シャッターが巻き上げてあることがわかります。

親指はシャッターを巻き上げたならばカメラの裏側に当てます。そして左手で距離リングを回しながら，焦点合わせと構図決定を行ない，人差指をシャッターボタンにかけ，カメラを両手でにぎり込みます。

1/30以下の遅い速度のシャッターを切る場合はかならず三脚または何等か固定した台を使用してください。

なおこの際シャッターボタン上にケーブルレリーズをはめて，これによってシャッターを切ると安全です。あるいはセルフタイマーを利用することもできます。

速写ケース

　カメラは速写ケース（第34図）に入れたならば底のナットを締めてください。
　このナットにはねじ孔があって，カメラをケースに入れたまま三脚に取り付けることができます。
　速写ケースは前ぶただけを取りはずすことができます。
　前ぶたはこれをただひっぱってもとれません。第35図に示すように底部のナットの両側まできている前ぶたの末端部を後方（カメラのレンズと反対側）からめくるようにします。
　前ぶたを取り付けるには，末端部のボタンをただ平らに押したのではとまりません。取りはずした時と丁度反対に，まずスナップの突起の前側（カメラのレンズ側）にスナップ孔内側を引っかける（第36図）ようにして入れてから全体を押します。

34

35

36

付　録

　ニコンSP発売当時に販売しておりました「交換レンズ」「ニコン用連動露出計」「専用フラッシュガン」の使用方法を記載致しました。
　いずれの製品も，現在は販売致しておりませんので，あくまでご参考としてお読みください。

交換レンズ

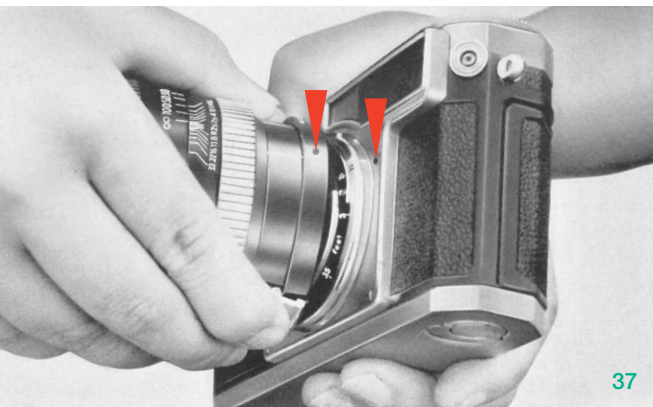
カメラに望遠または広角レンズを取り付けるには，

1．カメラとレンズの距離目盛は両方とも∞（無限遠）にセットしておきます。

2．レンズをカメラのレンズ孔に入れ（第37図），この際鏡胴の赤点をカメラの赤点の位置に合わせます。

3．そこでレンズを左へ（時計の針と反対に）カチリといって止まるまで回します。

4．この位置で鏡胴上のツメが元へもどることを確かめてください。

37

レンズの取りはずしはツメを押しながら上記の手順を逆にすればよいのです。

望遠レンズの焦点合わせはカメラの焦点調節用ギヤによって行なうのでなく，鏡胴のリングを回して行ないます。

カメラの距離計と連動する交換レンズは2.5cmから13.5cmです。18cm以上の望遠レンズでは連動しませんので，別に望遠レンズ用のレフボックスをカメラとレンズとの間に取り付け，レフボックスの焦点ガラスを見て焦点合わせと構図決定を行ないます。

フィルター

ニコンフィルターにはねじ込み式と，シリーズ式とがあります。

ねじ込み式はそのままレンズにねじ込み，またはその上にスプリング式フードを取り付けて共に使用できるものです。

シリーズ式フィルターはねじ込み式フードにはさんで用います。フィルターだけをレンズに取り付けるときには，アダプターリングインサートを用います。

フィルターガラスの両面は反射防止コーテッドされており，フィルターはプラスチックケースに納めてあります。

フィルターは各レンズに応じて特に右表に示すような寸法のニコンフィルターのご使用をおすすめします。他の製品特にJISに準拠しないものでは画像またはレンズ自体に何等かの故障を起こすことがありますからご注意ください。

フィルターを用います時には，露出時間をフィルターのファクター（倍数）だけ長くするかまたはそれだけレンズ絞りを大きくする必要があります。（下表参照）

フィルター		ニッコールレンズ（ニコンマウント）
シリーズ	ねじ込み	
Ⅶ	52	2.1cmF：4
Ⅶ	—	2.5cmF：4
Ⅶ	43	2.8cmF：3.5
—	43	3.5cmF：1.8
Ⅶ	43	3.5cmF：2.5
Ⅶ	43	3.5cmF：3.5
—	62	5 cmF：1.1
Ⅶ	43	5 cmF：1.4
Ⅵ	40.5	5 cmF：2
Ⅷ	—	8.5cmF：1.5
Ⅶ	48	8.5cmF：2
Ⅶ	52	10.5cmF：2.5
Ⅶ	34.5	10.5cmF：4
Ⅶ	43	13.5cmF：3.5
Ⅸ	—	18 cmF：2.5
Ⅸ	—	25 cmF：4
110mm	—	50 cmF：5

種類		記号	フィルターファクター	
			昼光	電灯（タングステン光）
黄色	淡	Y43, Y44, Y45	1.5	1
	中	Y47, Y48, Y49	1.7	1.2
	濃	Y51, Y52, Y53	2	1.5
オレンジ色		O55, O56, O57	3	2.5
赤色		R59, R60, R61	6	—
緑色	淡	X0	2	1.7
	濃	X1	—	2
紫外線		L38, L39, L40	1	1
ニュートラル	ND4X	ND4X	4	—
	ND8X	ND8X	8	—

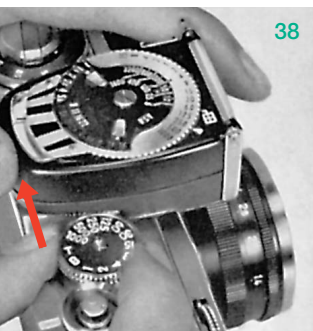
（注意）
3.5cmF1.8復刻モデルに，従来のニコン製43mmフィルター（ネジピッチ＝0.5mm）は使用できません。無理に装着すると，レンズもしくはフィルターのネジを傷めます。

ニコン用連動露出計

ニコンＳＰ型にはそのアクセサリーシューにニコン用連動露出計を取り付けられます。これはカメラを被写体に向け，露出計の絞り目盛盤をレンズの絞りによって指針の示すところまで回転させるだけで，シャッター目盛がセットされ，適正露出が与えられるようになっております。

38

39

使　用　法

まず露出計をアクセサリーシューに差し込み，指で少し引き離しながら（第38図），カメラのシャッター目盛盤を回して，これの外周の歯車を露出計の底部にある歯車にかみ合わせるのですが，この場合露出計の側面歯車の上方にある指標（第38図）にカメラシャッター目盛盤の1000を合わせ，露出計上面の指標で読める速度目盛の数字も同じ数字の1000を指すようにします。

次にカメラに装填してあるフィルムの感度に合わせて露出計上のＡＳＡ目盛盤をセットします。

撮影に当たり，被写体に露出計の前面窓を向けますと指針が動きます。カメラの方のシャッター目盛盤を回転しながら（第39図），カメラのレンズに与えた絞りと同じ数字が指針のところにくるようにします。これでシャッター目盛盤はその時の適正露出時間にセットされたことになるのですからシャッターが切れるわけです。また

反対に目的とするシャッター速度をカメラのシャッター目盛盤上でセットすれば，指針によって露出計の絞りの目盛が指示され，これがこの時レンズに与えるべき適正絞りであることがわかります。

被写体が明るい時には露出計の前面の開閉扉を閉じ，絞り目盛は黒色の数字の方を用い，多少暗ければ，扉は蝶番の左端を押して（第40図）開き，この場合絞り目盛の赤文字の方を読みます。

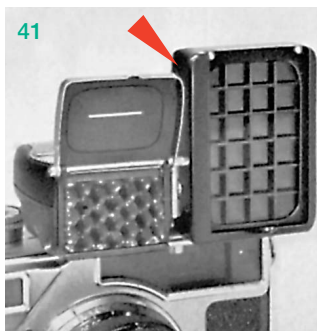
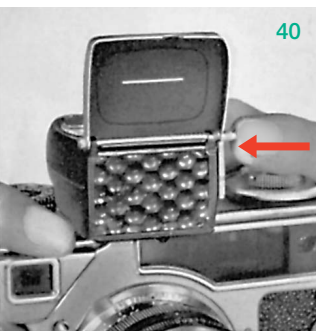
また更に被写体が暗い場合には，露出計の側面に増幅器を差し込みます（第41図）。そして絞り目盛の数字はやはり赤色の方を用いますが，この際露出計の速度目盛をセットし直す必要があります。すなわち速度目盛の指標として副指標⊞を用いて，速度数字を読み取ったならば，この数字を主指標▼まで動かし，シャッター速度を２段ずらせることです。

もしシャッター速度が１秒以上になる時にはシャッター目盛盤はＢで止って動きませんから，露出計の方の速度目盛盤を回すことによって絞り目盛を指針に合わせます。そして速度目盛盤上で適正露出時間を読み取り（15秒まで読めます），これによってＢにセットしたまま正しく押します。ただし露出計上の速度目盛盤の指を離せば自然にもどって２秒を示すことにご注意ください。

なおこの露出計は反射光式ですから，入射光を測定される際には備えつけの乳白板を露出計窓に（もし増幅器使用の時にはこれにも）差し込んでください。

専用フラッシュガン

42

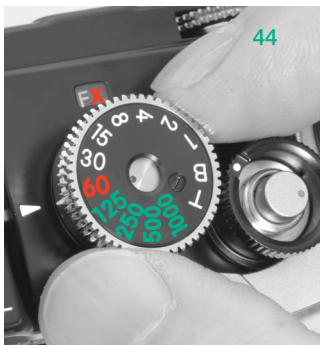
43

フラッシュガン（例えばＢＣ３型）を用いる際には，コードのプラグをシンクロソケット（第42図）に差し込みます。

ポケット型フラッシュガンＢＣ４または５型の場合には，これをカメラのアクセサリーシューに差し込めば，そのままアクセサリーシューのすぐ前にある接点（第43図）に接続し，コードを用いる必要はありません。

いずれにしてもご使用になる閃光電球の種類とシャッター速度とによって，シンクロセレクターを次ページの表に示すようにセットすればフラッシュは完全同調します。

セレクターをセットするには，シャッター目盛盤の周囲の歯車を指で持ち上げて，左右いずれかに回し，表にあるようなマークと文字をすぐそばにある窓（第44図）に出せばよいのです。

窓にはセレクターを左右に回すに従って次の順にマークと文字が現われます。

44

閃光球			シャッター速度											
	マツダ	ウエスト	1000	500	250	125	60	30	15	8	4	2	1	B
FP	No. 6 No. 6Z	No. 6 No. 6Z	●				●	● F						
F	F 1 F 2 F 3	SM SF SS	—	—	—	—	● F	F X						
M	Press	M 5	—	●			●	● F						
	No. 3 No. 5 Z 5	No. 3 Z-Press	—	—	—	●	●	● F						
	No. 0 2 — M	No. 0 MX — 0	—	—	—	—	—	● F						
X	ストロボ タイムラグなし		—	—	—	—	F X							
	ストロボ タイムラグあり		—	—	—	—	—	F X						

セレクターの右回転は緑マークで止まり，左回転はＦＸで止まるようにしてあります。この限界を越して無理に回さないでください。

閃光電球としてはなるべく上表で示すように小型ＦＰ級，Ｍ級またはＦ級のものをご使用ください。小型ＦＰ級，Ｍ級の場合にはシンクロ窓のマークの色を，またＦ級の場合にはＦの文字の色をシャッター目盛盤の数字の色と一致させればよいことになります。

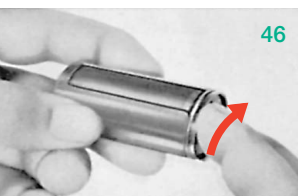
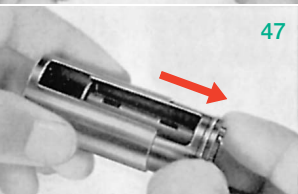
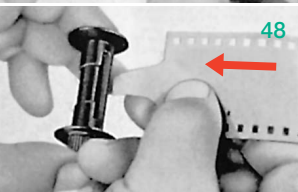
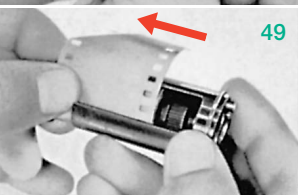
レンズの絞りはフラッシュガンに付いているガイドナンバー計算盤によって見出して定めます。

ストロボの場合

ストロボをご使用の時には，上表に示す通りシャッター速度は60またはそれ以下（緩速度）に，シンクロセレクターはＦＸにしてください。ただしタイムラグのあるストロボではタイムラグに応じてシャッターを30またはそれ以下にします。

ニコンマガジン

ニコンカメラには市販の日中装填フィルムパトローネを使いますが，別に35mmフィルムを装填できる専用マガジンも発売しております。

ニコンマガジンは外枠と内枠そしてスプール（巻軸）から成ります（第45図）。外枠の底の数字は装填したフィルムの感光度（ＡＳＡ）を表示するためです。黒い数字は黒白フィルム，赤い数字はカラーフィルムのためです。数字は縁の白線に合わせます。マガジン内の全フィルムの撮影がすみ，カメラから取り出した時には数字を赤点の方に合わせておきます。

46

45

内　枠

スプール

外　枠

47

48

49

マガジンを開くには

マガジンはそのスプールの突き出た方を手前にして左手で持ち（第46図）右手親指で内枠頭のボタンを押しながら内枠を右に回し，外枠のあきと内枠のあきとが合致するまでにしますと，内枠は外枠からとび出しますから，内枠を外枠から抜き出せば，スプールも取り出せます（第47図）。

フィルムのマガジンへの装填
（暗室内で）

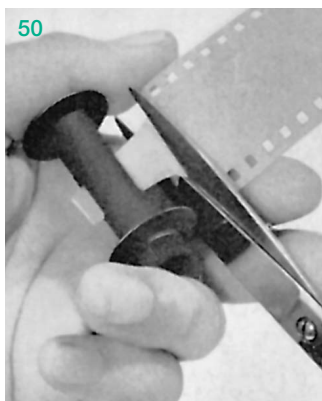
まずフィルムの末端を切って舌形になし，スプールを左手でもち，フィルムの舌は右手で乳剤側を下にして，スプールの大きい方の隙孔から通します（第48図）。フィルムは通したならばしっかりと歯にかかって抜けなくなりますから，乳剤側を下にていねいにスプールに巻いていきます。

フィルムを巻いたスプールはそのつまみの方を先にして末端の方から内枠に入れ，フィルムの末端は外に出します（第49図）。そして外枠をかぶせ，内枠を前述の開く場合と反対に左へ2回カチリと音がするまで回します。

これでマガジンは閉じられ，フィルムは完全に外光からさえぎられます。

フィルムの取出し
（暗室内で）

マガジンを開く時と同様にしてフィルムを巻いたスプールを取り出したならば，末端の舌の基の所でフィルムを切ります（第50図）。そして隙孔に残ったフィルムは，舌の末端（舌の基でなく）から引き出します。このためにはあらかじめ舌は十分長く作っておく必要があります。フィルムの切り残りがスプールの隙孔に残ってどうしても取り出せない場合には，隙孔の縁にねじ止めしてある止め金をはずして，フィルムを取り去ってからふたたびねじ止めしておきます。

50

カメラの手入れと取り扱いについて

カメラを末永くご使用いただくために，普段から心掛けていただきたい，取り扱い上の注意や，お手入れの方法などをまとめてあります。

使用禁止

シンナーやベンジンなどの有機溶剤をカメラの清浄に使用しないこと
火災や健康障害の原因となります。
製品を破損します。

■カメラ本体を手入れする際の注意

● カメラ本体のお手入れは，ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払った後，柔らかい清潔な布で軽く拭いてください。
特に，海辺で使った後は，真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから，乾いた布で軽く拭いて乾かしてください。

■レンズを手入れする際の注意

● レンズにゴミやホコリが付いているときは，キズが付きやすいので，ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払う程度にしてください。
万一レンズに指紋などが付いてしまった場合は，柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせ，軽く拭き取ってください。

■強いショックを与えないでください。

● カメラおよびレンズを落としたり，ぶつけたりしないように注意してください。
強い衝撃や振動を加えますと，破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

■シャッター幕に触れないでください。

● シャッター幕は非常に薄い布製の幕でできていますので，押さえたり，突いたり，ブロアーなどで強く吹くなどは，絶対にしないでください。
シャッター幕のキズ，変形，破損などの原因となります。

■カメラをご使用にならないときは，必ずレンズ前ぶたを装着してください。

● このカメラは布製のシャッター幕を使用しており，直射光等の強い光にさらしますと，シャッター幕を傷めたり，漏光の原因となることがあります。

■極端な温度変化は避けてください。

温度差が極端となる所（寒い所から急に暖かい所や，その逆となる所）にカメラを持ち込むと，カメラの内外に水滴を生じます。
…カメラをバッグやビニール袋などに入れて，周囲の温度になじませてからご使用ください。

■水しぶきなどがかからない場所で使用してください。

このカメラは防水構造ではありません。もし水滴がついた場合はすぐに乾いた布で拭き取ってください。

■風通しの良い場所に保管してください。

カビや故障などを防止するために，風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。
…ナフタリンや樟脳の入ったタンスの中，磁気を発生する器具のそば，極度に高温となる夏期の車内，使用しているストーブの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。
…保管する際は，カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤といっしょに入れておくとより安全です。ただし，皮ケースをビニール袋に入れておくと，変質することがありますので避けてください。
…乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸って効力がなくなりますので，ときどきとりかえてください。
…カメラを長期間使用しないまま放置しておくと，カビや故障の原因となることがありますので，1ヵ月を目安に，数回シャッターをきってください。

■長期間使用しなかったときは，フィルム装填前に数回シャッターをきってください。

このカメラは，ニコンSP発売当時の古いタイプのメカニカルシャッターを復刻して使用しています。フィルム装填前に数回シャッターをきり，馴染ませてからご使用ください。

アフターサービスと保証について

■この製品についてのお問い合わせは

ご意見，ご質問はニコンカスタマーサポートセンターでお受けしています。

・ニコンカスタマーサポートセンターにつきましては，本使用説明書43ページをご参照ください。

■修理を依頼される場合は

ご購入店，または当社サービス機関にご依頼ください。

・ご転居，ご贈答品などでご購入店に修理を依頼することができない場合は，最寄りの販売店，または当社サービス機関にご相談ください。

・当社サービス機関につきましては，本使用説明書43ページをご参照ください。

■補修用性能部品について

本機の補修用性能部品の保有期間は，製造打ち切り後10年間を目安としています。

・補修用性能部品とは，その製品の機能を維持するために必要な部品です。

・修理可能期間は，部品保有期間内とさせていただきます。なお，部品保有期間経過後におきましても，修理可能な場合もありますので，ご購入店，または当社サービス機関へお問い合わせください。

・水没，火災，落下等による故障，または破損で全損と認められる場合は，修理が不可能となります。なお，この故障または破損の程度の判定は，当社サービス機関にお任せください。

製品の保証について

1 この製品には「保証書」がついていますのでご確認ください。

2 保証書はお買い上げの際，ご購入店からお客様に直接お渡しすることになっています。
「ご愛用者氏名」および「ご住所」「購入年月日」「購入店名」がすべて記載された保証書をお受け取りになり，内容をよくお読みのうえ，大切に保管してください。

3 保証規定による保証修理は，ご購入日から1 年間となっております。
「保証書」をお受け取りになりませんと，上述の保証修理がお受けになれないことになりますので，もしお受け取りにならなかった場合は，ただちにご購入店にご請求ください。

4 保証期間経過後の修理は，原則として有料となります。また，運賃諸掛かりはお客様にご負担願います。

5 保証期間中や保証期間経過後の修理，故障など，アフターサービスについてご不明なことがございましたら，ご購入店，または当社サービス機関へお問い合わせください。

仕　様

ニコンSP 復刻モデル 仕様

形式	35mm距離計連動式フォーカルプレーンシャッターカメラ
使用フィルム	35mmフィルム
画面サイズ	24mm×36mm
レンズマウント	ニコンSマウント（バヨネット式）
シャッター	横走りゴム引き布幕式フォーカルプレーンシャッター
シャッタースピード	T，B，1，1/2，1/4，1/8，1/15，1/30，1/60，1/125，1/250，1/500，1/1000秒　等間隔目盛
焦点目盛	m表記（∞〜0.9）
セルフタイマー	接続時間可変式（3，6，10秒の目盛付き）
シンクロ接点	タイムラグ可変式，シンクロソケット付き，スピードライトは1/60秒以下で同調
ファインダー（視野枠付き）	ブライトフレーム式等倍ファインダー，5cm，8.5cm，10.5cm，13.5cm　光像枠付き アルバタ式広角ファインダー，2.8cm，3.5cm
フィルム感度	ISO感度表示
フィルム巻き上げ	一作動レバー式，136°回転，小刻み巻き上げ可能，予備引出角15°
フィルム巻き戻し	クランク式
コマ数計	自動復元順算式
裏ぶた	着脱式（モータードライブには非対応）
大きさ（ボディのみ）	約136mm（幅）×81mm（高さ）×43mm（奥行）
質量（重さ）	約590g（ボディ），750g（3.5cmF1.8付き）

ニッコール3.5cmF1.8仕様

レンズ構成	5群7枚
焦点距離	3.5cm
開放F値	F1.8
絞り目盛	F1.8〜F22
距離目盛	0.9m〜∞
画角	62°対角線
最短撮影距離	0.9m
アタッチメントサイズ	
フィルター取付部	43mm（P＝0.75mm）
フードキャップ取付部	48mm（P＝0.5mm）
フード	48mm（P＝0.5mm）スプリング式
キャップ	48mm（P＝0.5mm）スプリング式
大きさ	約59.0mm（径，レンズ取りはずし爪含む）×22.5mm（長さ，レンズ先端よりバヨネット基準面まで）
質量（重さ）	約160g（付属品含まず）

製品の使い方と修理に関するお問い合わせ

＜ニコンカスタマーサポートセンター＞

全国共通
☎ **0570-02-8000**
市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9:30～18:00（年末年始、夏期休暇等を除く毎日）
携帯電話、PHS等をご使用の場合は、**03-5977-7033** におかけください。
FAXでのご相談は、**03-5977-7499** におかけください。
音声によるご案内に従い、ご利用窓口の番号を入力してください。
お問い合わせ窓口の担当者がご質問にお答えいたします。

ニコン宅配修理サービスのご案内

修理品梱包資材のお届けから修理品のお引き取り、修理後の製品のお届けまでのサービスは下記をご利用ください。（有料サービス）

＜ニコン宅配修理サービスお申し込み専用窓口＞

0120 FreeDial ☎ **0120-868-545**

携帯電話やPHS等からのご利用はできません。
営業時間：9:30～17:30（土・日・祝日を除く毎日）
年末年始、夏期休暇等、休業する場合があります。

なお、上記フリーダイヤルでは宅配修理サービス関連以外のご案内は行っておりません。